地域組織の確立で
会員間の絆の促進を

JAMシニアクラブニュース

第227号
発行日　2026年11月25日
発行者　JAMシニアクラブ
mail jam-senior@jam-union.jp
発行所　東京都港区芝2-20-12　友愛会館11階　JAM本部内　〒105-0014　電話03-3451-2650　fax03-5440-7389

連携強化懇談会を開催
～会員拡大と政策実現について論議～



10月19日ＪＡＭ本部会議室において、ＪＡＭシニアによる２０２７年度第１回連携強化懇談会を開催しました。現役からは安河内会長、岩﨑書記長、浜副書記長、椎木副書記長、橋本組織グループ長、ＪＡＭシニアからは宮本会長をはじめ三役全員が出席しました。

冒頭ＪＡＭ安河内会長より、２０２７春季生活闘争方針の議論状況、現下の政治情勢、ＪＡＭの財政基盤強化を中心に挨拶がありました。

このあとシニア側から、会員の減少、高齢化など厳しい組織状況や定期総会で出された意見についての報告をし、今年1年を「25周年イアー」と位置づけ、シニアクラブがＪＡＭ全体の活動にどう関わっていくのか、現役とシニアの具体的連携の在り方など基本的な問題について、シニアクラブの中で、また現役との間で改めて議論・検討をすすめたいとの提起をしました。

また、２０２８年参議院議員選挙に向けて、現役ＪＡＭ、シニアそれぞれの取組み方針の報告をし、村田きょうこ必勝に向けて力を合わせていくことを確認しました。

東京
定期総会を開催

平木和裕　幹事

東京シニアクラブは10月13日ＪＡＭ金属労働会館において役員、会員、来賓含め計40名が出席し第26回定期総会を開催しました。

冒頭、逝去された会員に対して黙祷を捧げ、長岡隆会長の代表挨拶、来賓のＪＡＭシニアクラブ宮本礼一会長、ＪＡＭ千葉シニア長岡功会長、ＪＡＭ東京千葉を代表して南部地協松岡洋議長、東京高退連高木時夫会長の挨拶を受けました。郡山りょうと村田きょうこ両参議院議員からは、メッセージが披露されました。その後、大会議長の岡本修さん（東京航空計器）の議事進行で過年度経過・決算報告、新年度の活動方針・予算、役員の一部交代、特別報告事案の長寿（88歳）表彰の報告を審議しました。



活動方針は次のとおりです。

①会員拡大への取組み、10％拡大を目標に現役と連携を強化し４地協ＯＢ会と積極的な交流を推進。

②会員相互の交流を深める活動「東京街歩き」年２回程度の開催。

③政策制度要求として安心できる「年金・医療・介護」を

〈裏面に続く〉

主張



相次ぐ自然災害により、被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。熊本県、千葉県、石川県、各地で被災された方々が、一日でも早く平穏な生活を取り戻される事を切に願っています。

東日本大震災から15年が過ぎ私達に残した傷跡は、今までに経験した事のない甚大な被害でした。当時委員長の時に会社は海の傍にあり、工場の機械関係は全部ダメ、電気、水道もダメ、その何ヵ月後、それからが本格的な復興が始まり、会社と組合員が一丸となり予定より早く復興し・感激し、今現在に至っています。復興に向けて多くの努力が積み重ねられてはいます。自然を目の前に私達の生活が、いかに脆弱な基盤の上に築かれていたものであるかという事を、改めて認識させられた次第です。街並みや生活基盤の整備が進む一方では、課題が山積みとなり、被災された方々の心の傷・地域コミュニティーの繋がりの変化・人口減少や高齢化など、今もなお解決すべき課題が残されれ、今でも心の傷を負っている人も少なくはないです。私達が忘れてはならないのは、震災の記憶と教訓を次の世代へ引き継ぐことです。

東日本大震災からの教訓と未来へ

宮城シニアクラブ代表　後藤　守

しかし、15年という歳月が流れ、当時の体験を直接語れる方々も高齢化しています。語り部の担い手不足や震災を知らない世代の増加により、記憶の継承は年々難しくなっています。最近では、高校生や大学生も語り部として参加しているのも現実です。

だから今こそ、災害に備える一人一人の自助努力が重要です。日頃からの避難場所・避難経路を確認し、食料や水を備蓄する事、家族・近隣住民・自治会との連絡方法を話し合い、いざという時に助け合える関係を築いておくこと。こうした地道な取り組みが、自分と大切な人の命を守ることに繋がります。同時に自分ひとりだけでは限界があります。地域を支え合う共助、そして、行政による公助が一体となってこそ災害に強い社会が実現すると考えます。

最後に、国政へのお願いですが、被災地の現状と課題から目を背けることなく、復興支援・防災対策・被災者の生活支援、そして、震災の記憶と記録を継承する取り組みに力を注いでいただきたいと思います。ＪＡＭ宮城シニアクラブでも、これまでの経験を地域に活かして次世代に教訓を伝える責任があります。震災の記憶・記録を風化させず、誰もが安心して暮らせる地域社会を築くために、今出来る取り組みをしていきたい。

〈表面から続く〉

ＪＡＭ現役、退職者連合と連携し取組む。

④政策実現活動の推進、郡山りょう氏と村田きょうこ氏と共に政策制度要求の実現を目指す。

⑤千葉シニアクラブとの交流。

報告・議案はすべて満場一致で確認され、岩本副会長の「がんばろう」で総会を終了しました。総会後、懇親会を開催し、参加者のお互いの健康と現況を確かめ合いました。

総会に先立ち、学習会では「高齢者向け悪質商法被害防止」の講義を受けました。講師の東京消費者総合センターの待鳥美津子さんから特殊詐欺とＳＮＳ型投資・ロマンス詐欺の実態（認知総数４３０００件、被害総額３２５７億、年々増加している）が報告され、ニセ警察詐欺、サポート詐欺、自宅不動産が絡む危険について説明を受けました。困ったときおかしいと思ったとき消費者センターにすぐ相談してほしいと言われました。

長野　定期総会を開催

櫻井由紀夫

長野シニアクラブは10月14日、岡谷市の太田屋中央通りメモリーにおいて来賓・役員を含め28名の参加で、第26回総会を開催しました。

三井会長は冒頭の挨拶で、シニアクラブ発足からの25年を振り返り、「今日の混迷する諸情勢は、25年前と比較して良くなっていると言えない。その様な状況から我々シニア層も引き続き声を挙げて行く必要がある」と強調。来賓のＪＡＭシニアクラブ大野事務局長は、組織拡大、政策制度への積極的な関与、村田議員の再選の3点について協力を呼び掛けました。そして現役のＪＡＭ甲信の濵執行委員長は、「政策制度など世代間で対立構造を作るのではなく、現役とシニアの皆さんと協同して活動を進めたい」と挨拶されました。

総会では新年度の活動計画、予算、役員補充、村田氏の推薦決定の議案が満場一致で確認され、総会後の懇親会は、和気あいあいの雰囲気で大いに盛り上がりました。



愛知　定期総会を開催

澤山棋正　事務局長



愛知シニアクラブは10月31日名古屋都市センターにて、会員、役員、地区協代表、来賓含めて計35人の参加で開催しました。

報告・提起された議案はすべて可決・承認されましたが、「悪い方向に時代が進んでいる」という感覚があっても自らシニアとして声を上げることがむつかしい状況であることを実感させられた総会でした。冒頭、逝去された会員に対して黙祷を捧げ、幹事の石田さんを議長に選出しました。

吉田会長の挨拶は、気候変動のすさまじさに触れ、子供や孫を守るための取り組みが求められていることと、会員一人ひとりが人間関係をてこに新たな会員を勧誘しようという呼びかけがありました。

来賓の挨拶では、ＪＡＭシニアクラブ田中久弥副会長からは千葉豪雨による農作物の被害とそれ以上に冠水による車の被害が甚大であることが強調されました。ＪＡＭ東海常川陽介副執行委員長からは、労働運動の先達としてのシニアの皆さんの知見に学びつつ取組む必要性が強調され、岐阜シニアクラブ長澤会長からは、社会運動への参加、とりわけ選挙運動の取り組みに過去の知見が生かされていない現実があるという苦言が呈されました。三重シニアクラブ稲盛会長からは、健康寿命の大切さとその為の日常的なヘルスケアの習慣化が強調されました。最後に連合愛知シニアクラブの前野さんからは、自己の伊勢湾台風時の体験を交えて、高齢化が一気に進む韓国では、①に健康、②にその為の社会保障が大きな課題となっていることが報告されました。

第二部として総会恒例の学習会として〈相続問題〉をやりました。①手続きが大事なこと②順序と期限があること③そのための事前準備を専門家を交えて行うことなどを学びました。

第三部はセレモニー抜きの25周年懇親会。平年では見かけないメンバーがそろいました。10年周期を5年にして良かったと思いました。

岐阜　定期総会を開催

井亦廣幸　事務局長

岐阜シニアクラブは10月31日ワークプラザ岐阜5F大ホールにて、代議員24名、役員11名、来賓５名に参加を頂き第26回総会を開催しました。

勝野事務局次長の開会挨拶後、議長に大橋幹夫氏を選出し長澤会長、来賓のＪＡＭシニア田中久弥副会長、ＪＡＭ東海岐阜県連日置副会長、ＪＡＭ愛知シニア吉田会長の３名にご挨拶を頂き、２０２６年度の活動報告、決算報告、会計監査報告と２０２７年度の運動方針案、予算案、政策実現の取組み、会員登録人員及び会費納入など審議を行い報告・提起された議案は満場一致で可決・承認されました。

２０２７年度具体的活動

①ＪＡＭ岐阜シニアクラブの仲間を増やすために現役の皆さんの力を頂きながら進めていきます。

②エネルギーをはじめとする私達に影響する諸物価の値上がりなど無関心ではいられません。ＪＡＭシニアクラブ本部からの署名活動などの要請行動などがあれば対応していきます。

③政策・制度要求の取組みは、年金・医療・介護等、社会保障制度の課題について、ＪＡＭシニア本部の取組みを基に、研修会などを開催し、理解を深めながら進めていきます。

④仲間の皆さんに少しでも活動を知っていただくために、機関誌の発行をして情報交換をしていきます。

⑤政策実現活動の推進は、２０２８年７月施行される参議院比例代表選挙に於いてＪＡＭ現役の取組みを支持し活動の推進を図っていきます。

⑥年間に以下の活動、研修会・政策実現会、グランドゴルフ大会、ボウリング大会、その他、幹事会で確認された行事を行い交流と情報交換を深めていきます。

また、昨年経営譲渡のため岐阜シニアクラブを脱会されたナブテスコ垂井ＯＢ会が、新会社設立に伴い新たに労組が結成されたことにより旧名と同じナブテスコ垂井ＯＢ会として再加入の報告がありました。原田副会長の閉会挨拶で総会を終了しました。

